

| コンセプト：「地域でいちばん心地よく、自学自習ができる場所」 | | |
|--|--|---|
| 前提：「管理」をできる限り減らし、「私/私たち」を主語に「問題解決」に取り組む環境を提供することで、「自律/協調」を「学ぶ」 | | |
| Stage | 支援 (assist) ...主語を「私/私たち」として、問題解決に取り組む機会を提供すること | 実践 |
| ▼ 1. 脱・「管理」 ...脱・「自己の問題解決のために、他者の問題解決に干渉すること」 | ▽ 1. 「脱・『管理』」 「脱・『管理』」のために、以下の①～③に取り組めます。 ① 信頼関係の構築 ② 共通認識の形成 (feedforward) ③ 「問題解決」を調整するための情報共有 (feedback) ■ 1.1 「① 信頼関係の構築」 「信頼」によって「関係」を構築することを目指します。 □ 1.1.1 「信頼」 「信頼」とは「ありのままの姿を受け入れ、相手の可能性を信じること」です。 「〇〇してくれるから信じる」などの「条件」付きである「信用」とは異なります。 □ 1.1.2 「関係」 「関係」とは「人と人との結びつき方」です。 ...共同 / 分業 / 互助 / 交換 / 上下 / 競争 / 模倣 / 信頼 など □ 1.1.3 構築手段 ...空間共有 / 情報共有 / 約束 / 契約 / コミュニケーション など ■ 1.2 「② 共通認識の形成 (feedforward)」 □ 1.2.1 「共通認識」 「共通認識」とは「同じテーマについての、複数人による類似の解釈・理解」です。 「脱・『管理』」という文脈での「同じテーマ」は「問題解決」における「① 理想の状態を定義」の内容となります。 □ 1.2.2 形成手段 ...文章, 画像, イラスト, 動画, 体験 など ■ 1.3 「③ 『問題解決』を調整するための情報共有 (feedback)」 □ 1.3.1 調整 理想の状態に近づいている場合 ... 「1 → 10」 理想の状態から離れている場合 ... 「-1 → 0」 理想の状態 自体を見直す場合など... 「1 → a」 □ 1.3.2 情報共有手段 ...文章, 画像, イラスト, 動画, 言葉, 行動, 態度 など | ▽ 1. 「脱・『管理』」 ■ 1.1 ① 信頼関係の構築 □ 1.1.1 「信頼」 ・「過去が〇〇だから、未来も△△だ」と決めつけずに、子どもの未来の可能性を信じる ・条件を提示して、「〇〇だから、△△する」などの交渉をしない □ 1.1.2 「関係」 ・「先生 - 生徒 / 店員 - お客さん」のような上下の関係を避ける ・"ご褒美" タイムを作らない ・競争を引き起こさない □ 1.1.3 構築 ・まずは自分から相手を信じる ・店主さん、保護者さん、子どもに挨拶をする ■ 1.2 ② 共通認識の形成 (feedforward) □ 1.2.0 資料を確認する ・活動目的 「みんなのことにみんなが協力する社会の実現」 ・組織運営 「みる、きく、いう」 ・教育方針 「教えないで教えよう」 □ 1.2.1 環境をコーディネートする (配慮) ・必要なモノだけを置く ・子ども / スタッフの座る位置をあらかじめ決める ・人数に余剰があれば、テンケン役を配置する (詳しくは、「Stage.2 『自律』 - 実践」をご確認ください。) □ 1.2.2 学びの引継ぎ ・子どもが来たとき・帰るときに保護者さんと情報交換をし、学びを引き継ぐ ・(引き継ぎの時間が取れない場合は、)「てらこやノート」のコメントに書く ■ 1.3 ③ 「問題解決」を調整するための情報共有 (feedback) □ 1.3.1 リアクション ・「褒める・叱る」を避ける ・(子どもが自分で考えて判断できるように、)情報共有にとどめる □ 1.3.2 情報共有 ・「#00-3_announce_フリカエリ」を確認する ・「フリカエリ」をもとに、「寺子屋」の運営方法を調整する ・保護者さんの協力を得たいことがある場合は、帰る際のフィードバック時やメールなどで共有する |

| コンセプト：「地域でいちばん心地よく、自学自習ができる場所」 | | |
|--|---|---|
| 前提：「管理」をできる限り減らし、「私/私たち」を主語に「問題解決」に取り組む環境を提供することで、「自律/協調」を「学ぶ」 | | |
| Stage | 支援 (assist) ...主語を「私/私たち」として、問題解決に取り組む機会を提供すること | 実践 |
| ▼ 2. 自律 (autonomy) ...問題解決の主語が「私」 となっている状態 | <p>▽ 2. 「配慮 (coordinate)」... 「"ひとりのできること"」をひとりのできるように環境を調整すること</p> <p>■ 2.0 「みる、きく、いう」</p> <p>「みる、きく、いう」は心の動きを抽象化したフレーズです。 「配慮/対話」では「みる、きく、いう」の順番が大切になります。</p> <p>以下はそれぞれの例です。</p> <p>「みる」...観察、考慮、見守る 「きく」...質問、傾聴 「いう」...表現、意見</p> <p>加えて、心の動きである「好奇心 → 注意 → 認知」は「みたい、みよう、みる」のように表現します。</p> <p>■ 2.1 発達の最近接領域</p> <p>人には「"ひとりのできること"/"みんなとならできること"/"できないこと"」があります。その境界には個性があり、常に変化しています (活動目的「みんなのことにみんなが協力する社会の実現」の「図3.」を参照してください。)</p> <p>「配慮/対話」では、「I.II.」を通して、「①②」を目指します。</p> <p>I. 境界を見さだめる...みる、きく II. 境界を広げる...いう</p> <p>① 子どもが「"ひとりのできること"」をひとりのできる ② 「"みんなとならできること"」にのみ関わり、子どもの「"ひとりのできること"」を広げる</p> <p>■ 2.2 「配慮」</p> <p>「配慮」の実践において以下の A・B を意識し、スタッフ・子どもを C・D の状態に促すようにします。</p> <p>A. 対等 B. フェードアウト C. 集中 D. 忍耐</p> <p>□ 2.2.0 環境</p> <p>環境には、スタッフ・子どもなどの「人」も含まれています。この考えから、「Stage.2『自律』-実践」の【お手本】という手段が生まれています。</p> <p>□ 2.2.1 「A. 対等 / B. フェードアウト」</p> <p>活動目的「みんなのことにみんなが協力する社会の実現」の「▽3.」を参照してください。 「『寺子屋』内で、対等である」とは、「『スタッフ/子ども』ではなく、『ひとりの人間が複数人』である」ということです。</p> <p>□ 2.2.2 「C. 集中」</p> <p>「集中」とは「取り組んでいる問題解決以外を、意識的に『みない・きかない・いわない』ようにすること」です。</p> <p>□ 2.2.3 「D. 忍耐」</p> <p>「忍耐」とは「取り組んでいる問題解決について、『みる・きく・いう』を継続すること」です。「問題解決」に必要な技術です。</p> | <p>▽ 2. 「配慮」</p> <p>■ 2.1 「I. 境界を見さだめる (みる、きく)」</p> <p>□ 2.1.0 対応</p> <p>基本的に「"ひとりのできること"/"みんなとならできること"/"できないこと"」の判断は、子どもに任せます。</p> <p>ただし、ドリルや問題集などの「答え」のあるものに関しては、自分で「答え合わせ」をお願いするようにしましょう。 また、「かまってちゃん」や「アウトソーシング」は適宜判断して対応しましょう。</p> <p>加えて、子どもの「"みんなとならできること"」が「"ひとりのできること"」に変化したときには、対応を変えましょう (フェードアウト)。</p> <p>□ 2.1.1 「みる」</p> <p>・「中学生だから～」などの偏見を取り除き、子どもの"ありのまま"を受け入れましょう ・子どもの使っている言葉、文章、身振り手振り、順番・選び方などから、「どのように世界を観ているのか」を想像しよう</p> <p>□ 2.1.2 「きく」</p> <p>子どもに「この問題、どうやって考えてる？」や「どこまで自分でできそう？」などと質問をしましょう。</p> <p>■ 2.2 「II. 境界を広げる (いう)」</p> <p>□ 2.2.1 「環境を調整する」</p> <p>【お手本】</p> <p>・対等な存在として、自身も集中して自学自習に取り組みましょう ・「寺子屋がどのような場所なのか」を見てわかってもらうため、子どもが来る前に自学自習を開始しておきましょう ・(子どもが「てらこやノート」の使い方がわからない場合は、)一緒に書いて、見せ合いましょ ・"よりそう"ではなく"ただよう"を意識しましょう (「香水」ではなく「お香」のように空間に広がり影響をおよぼす関わり方) ・場の空気を考慮した休憩の取り方をしましょう ・周りが気になる音を出さないようにしましょう ・基本的には「自学自習」が終わったら帰るようにしてもらいましょう ・(「おしゃべり」タイムに入ってしまったような場合は、)いまは「"ひとりのできること"」の外にある「問い」を残してその場を避けましょう。</p> <p>【空間】</p> <p>・机 / 椅子の配置を工夫 広いスペースをなくすことで、子どもに歩き回りたくないと思わせないような配置にするなど ・エアコンの調節や換気によって学びに集中できる温度・湿度にしましょう。 風通しがよくすこし寒いくらい</p> <p>【視覚】</p> <p>・カフェには視界から入ってくるたくさんの方がいます。 集中を妨げるものを片づけましょう。 ・立ち上がらなくてもみえる位置に時計をおきましょう ・部屋の明るさを調整しましょう。 塾や学校のような明るさよりも少し暗いくらい ・スタッフの視線も環境の一つです 子どもに視線を与えすぎない心がけましょう。 子どもの真正面に座ることは「話しかけてもいい」という合図になりかねません。</p> <p>【聴覚】</p> <p>・小雨くらいの音量になるよう、音の確認 (BGMなど) をしましょう。 BGMを流す場合は、集中を妨げうる歌詞付きのものや、流行りのものはさけましょう。 ・大きな声は集中を妨げる要因になったり、「話してもいい」という合図になりかねません。 相手にだけ聞こえる大ききさで話しましょう。</p> <p>□ 2.2.2 「てらこやノート」</p> <p>自分で「問題解決」をできるようにノートを使いましょう。</p> <p>1. 「こんなことを学びます」... 「問題解決」における「①理想の状態を定義」 2. 「今日のすごし方」... 「休憩の時間をどのように過ごすか？」まで自分で決めます。また科目ごと「振り返り」を一緒にできるように、声をかけてもらうように約束をしておきましょう 3. 「こんなことを学んだよ」..."やったこと"ではなく、解釈・理解の変化を書きます 4. 「次までに頑張ること」...学びを連鎖的・連続的にする工夫をしましょう</p> <p>□ 2.2.3 「③ 集中」</p> <p>・自学自習ができている子に干渉しすぎないようにしましょう ・「おしゃべり」が始まった場合は、「笑顔を返す」などの無音・一時的な反応をしましょう</p> <p>□ 2.2.4 「④ 忍耐」</p> <p>・質問や問いによって取り組むべき課題を発見する ・「てらこやノート」に意味のある細かい目標を立てる 達成後、反省と改良をする 楽な作業は意味のある練習ではない...理解している問題ばかり解く ・てらこやノートに学ぶ目的を書く ・できると信じて"ぎりぎりできること"に取り組む</p> <p>□ 2.2.5 「対話」 (詳しくは、「Stage.3『協調』-実践」をご確認ください。)</p> |

| コンセプト：「地域でいちばん心地よく、自学自習ができる場所」 | | |
|--|--|---|
| 前提：「管理」をできる限り減らし、「私/私たち」を主語に「問題解決」に取り組む環境を提供することで、「自律/協調」を「学ぶ」 | | |
| Stage | 支援 (assist) ...主語を「私/私たち」として、問題解決に取り組む機会を提供すること | 実践 |
| ▼ 3. 協調 (polyphony) ...問題解決の主語が「私とあなた」となっている状態 | <p>▽ 3. 「対話 (dialogue)」...お互いの見ている世界についての解釈・理解を重ね、物語 (narrative) を紡ぐこと</p> <p>対話は、以下の「I.～III.」を通じて、「物語 (narrative)」を紡ぐ言語行為です。</p> <p>I. みる、きく ... 「自分の考え」を形成する II. いう ... 「自分の考え」を表現する III. みる、きく、いう... 「相手の考え」と「自分の考え」を重ねる</p> <p>「物語 (narrative)」とは「『私』の見ている世界についての一連の、変わりゆく解釈・理解 (#story)」</p> <p>■ 3.0 コミュニケーション</p> <p>「おしゃべり / 教授 / 議論 / 対話」について、以下の方法で整理します。</p> <p>目的：？ ① 相手が...特定 or 不特定 ② やり取りが...双方向 or 一方向 ③ 考えを...重ねる or 伝える</p> <p>「①」の「特定 or 不特定」は「相手のことを理解している or していない」というニュアンスです。</p> <p>□ 3.0.1 おしゃべり (chat)</p> <p>目的：仲良くなる・心理的な安全確保 ① 相手が不特定 ② やり取りが双方向 ③ 考えを重ねる</p> <p>...これは最小限に</p> <p>□ 3.0.2 教授 (teaching)</p> <p>目的：知識の共有 ① 相手が不特定 ② やり取りが一方向 ③ 考えを伝える</p> <p>...これは最小限に</p> <p>□ 3.0.3 議論 (discussion)</p> <p>目的：白黒つける ① 相手が特定 ② やり取りが双方向 ③ 考えを伝える</p> <p>...これは非推奨</p> <p>□ 3.0.4 対話 (dialogue)</p> <p>目的：新しい景色から得られる発見を楽しむ ① 相手が特定 ② やり取りが双方向 ③ 考えを重ねる</p> <p>...これは推奨</p> <p>■ 3.1 「I. みる、きく...『自分の考え』を形成する」</p> <p>□ 3.1.0 「自分の考え」</p> <p>「自分の考え」とは「『私』が体験の中で身につけた知識で、状況に合わせて使ったり、修正したりすることができるもの」です。</p> <p>□ 3.1.1 形成過程</p> <p>「みたい、みよう、みる」と「ききたい、きこう、きく」を繰り返す中で以下の操作に取り組みます。</p> <p>比較する, 分類する, 順序立てる, 関連付ける 要約する, 理由付ける, 批判する, 予測する, 推論する 具体化する, 抽象化する, 構造化する</p> <p>■ 3.2 「II. いう...『自分の考え』を表現する」手段</p> <p>...文章, 画像, イラスト, 動画, 言葉, 行動, 態度 など</p> <p>■ 3.3 「III. みる、きく、いう...『相手の考え』と『自分の考え』を重ねる」</p> <p>コミュニケーションを取る際は、以下の「□ 3.3.1～□ 3.3.3」を制限時間まで繰り返します。</p> <p>□ 3.3.1 「みる」</p> <p>「相手の考え」を受け入れ、相手がどのように世界を理解・解釈しているのかを体験します。</p> <p>□ 3.3.2 「きく」</p> <p>体験の中で感じたことで、もっと詳しく知りたいことについて質問します。</p> <p>□ 3.3.3 「いう」</p> <p>「みる、きく」を通して変化した「自分の考え」を再び表現します。</p> | <p>▽ 3.1 「I. みる、きく...『自分の考え』を形成する」</p> <p>焦らずに、ゆっくりと「みる、きく」を繰り返す。</p> <p>■ 3.1.1 「みる」</p> <p>本・図鑑・動画などを通じて「みる」。</p> <p>□ 3.1.1.1 「みたい」</p> <p>【広げる】 ・お手本 ・興味を言語化 ・関連する情報の提供</p> <p>□ 3.1.1.2 「みよう」</p> <p>【へらす】 ・的を絞る質問 ・余計なものを片付ける</p> <p>□ 3.1.1.3 「みる」</p> <p>【ヒント】 ・実演 ・単語を教える</p> <p>■ 3.1.2 「きく」</p> <p>「みる」を通じて生まれた「？」について「きく」。</p> <p>□ 3.1.2.1 「ききたい」</p> <p>【広げる】 ・「他には？」 ・関連する情報の提供</p> <p>□ 3.1.2.2 「きこう」</p> <p>【へらす】 ・疑問点を整理 ・「それってつまり？」</p> <p>□ 3.1.2.3 「きく」</p> <p>【ヒント】 ・白紙を渡す (メモ) ・辞書を貸す ・単語を教える</p> <p>▽ 3.2 「II. いう...『自分の考え』を表現する」</p> <p>「みる、きく」で形成した「自分の考え」を表現する。</p> <p>■ 3.2.1 「いいたい」</p> <p>【広げる】 ・白紙を渡す ・「何考えてたの？」 ・インタビュー</p> <p>■ 3.2.2 「いおう」</p> <p>【へらす】 ・フレームの提示 ・情報の整理</p> <p>■ 3.2.3 「いう」</p> <p>【ヒント】 ・「それからそれから？」 ・補助線を引く ・単語を教える</p> <p>▽ 3.3 「III. みる、きく、いう...『相手の考え』と『自分の考え』を重ねる」</p> <p>お互いに、「みる、きく、いう」を繰り返す。</p> <p>■ 3.3.1 「みる」</p> <p>・ゆっくりと話す ・紙に書く</p> <p>■ 3.3.1 「きく」</p> <p>・(視野を広げるために) ポケてみる ・余白を残す</p> <p>■ 3.3.1 「いう」</p> <p>・相手に順番を渡す ・じっくり聞く ・発見を伝える</p> |